

令和8年度第2回企画展

古代吾妻の史話と文化財

～ヤマトタケル神話から六合落人伝説まで～



神馬図 (江戸時代、吾妻神社蔵)



蕨手刀 (県重文、古代、大宮巖鼓神社蔵)

大宮巖鼓神社伝世社宝

被いの刃

蕨手刀

令和8年 7/18(土) ▶ 9/23(水/祝)

■休館日 木曜日 ■開館時間 9時～17時 (入館は16時30分まで)



ミュージゼ / Musée

中之条町 歴史と民俗の博物館
Nakanojo Museum of Folk and History

〒377-0424 群馬県吾妻郡中之条町大字中之条町947-1

TEL 0279-75-1922 URL <https://www.town.nakanojo.gunma.jp/site/myuze/>

■観覧料 一般200円(160円) 小中学生100円(80円)

※()内は20名以上の団体料金

※障がい者手帳等をお持ちの方と、その付き添いの方1名は無料



渡来人による先進文化の影響を受けた古代吾妻

飛鳥時代(670年頃)創建とされる金井廃寺跡、平安時代初期に成立した勅旨牧(皇室用の馬を育てる牧場)の市代牧(市城牧)、大宮巖鼓神社の伝世社宝・蕨手刀(県指定重要文化財)などの史跡や文化財は、東国の辺境地である吾妻郡に独特な歴史文化が存在したことを物語っています。これらは朝鮮半島の百済国から来た渡来人たちが持ち込んだ鉄や馬や仏教、そして畿内中央政権との人的交流によって開花した文化であると考えられます。その後、東北地方の蝦夷との戦いが繰り返され、牧を母体とした武士団が成長すると、この地は吾妻氏を中心とした中世社会へと移行していきます。今回の企画展では4世紀のヤマトタケル東征から12世紀の六合落人伝説に至るまで、地元につながる8つのエピソードを取り上げ、古代の吾妻郡を振り返ります。

主な展示構成

1. ヤマトタケルの東征
2. 大宮巖鼓神社と吾嬬神社
3. 古代寺院の建立
4. 上野国吾妻郡の成立
5. 吾妻の巡礼と寺社縁起
6. 名馬を輩出した市代牧
7. 四万を通過した蝦夷討伐
8. 武士団の形成と落人伝説

■大和王権と上毛野氏との結びつきを伝える大宮巖鼓神社と吾嬬神社

日本武尊が東征の際に吾妻郡に拠り、上妻姫(上毛野御諸別王の女)との間に巖鼓尊が誕生したと伝わる。



大宮巖鼓神社(東吾妻町原町)



上妻姫を祀る吾嬬神社(中之条町山田)



宇婆神鏡(伝上妻姫所用、大宮巖鼓神社蔵)



鳥銭・魚幣(大宮巖鼓神社蔵)

■白鳳期建立(670年頃)とされる金井廃寺

百済の職人が瓦や仏教建築の高度な技術を伝えた。



軒丸瓦と平瓦(廃寺跡出土)



礎石(金井廃寺の遺構)

■平安初期にはあった市代牧

947年(天曆元年)に名馬白波を村上天皇に献上した。



吾妻川対岸から見る市城の牧場跡

■元慶の乱で蝦夷と闘う

878年(元慶2年)に四万奥地を越えて東北へ出兵した。



稲裏地神之碑(町重文、中之条町)

■三郷(長田・伊参・大田)から成る吾妻郡

中之条盆地に位置し、人口約3,600人と推測される。



銅印(町重文、町教育委蔵)



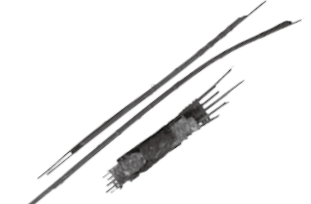
墨書土器(町教育委蔵)

■六合世立の落人伝説「明けの山本・宵の山本」

1183年(寿永2年)元旦、木曾義仲挙兵に応じた世立の落武者の帰着が遅れ、山の松を門松に見たたと伝わる。



武器を脱いだ脱武具の池(草津町)



落人の折れた弓と矢筈(当館蔵)

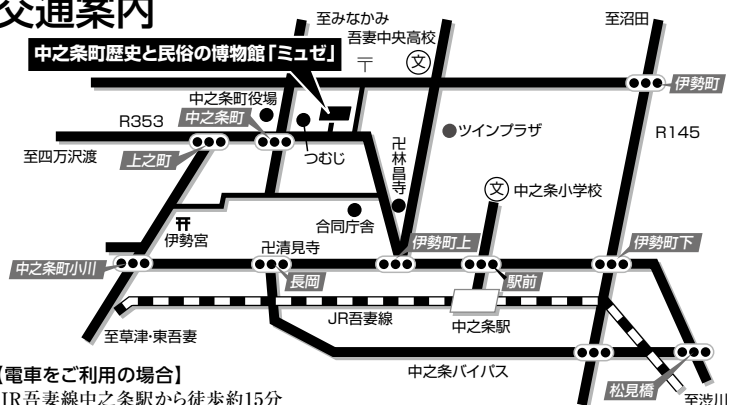
企画展イベント

ミュージアムトーク(見どころ解説)

- テーマ 「古代吾妻の史話と文化財」
 日時 7月25日(土)13時15分~14時
 8月29日(土)13時15分~14時
 場所 博物館「ミュゼ」
 2F企画展示室
 講師 山口通喜(博物館「ミュゼ」館長)
 定員 先着15名(予約不要)
 費用 入館料のみ

※詳しくは当館公式ホームページをご覧ください

交通案内



【電車をご利用の場合】

- ・JR吾妻線中之条駅から徒歩約15分
- ・中之条駅から関越交通バス(四万温泉行または沢渡温泉行)約5分、「博物館前」下車

【車をご利用の場合】

- ・関越自動車道 渋川伊香保ICから約40分(駐車場 約20台)